

イノシシ被害防止対策の労力低減に向けた 集落を囲む防護柵及び緩衝帯の整備

1 要旨

岩国市南河内地区は旧岩国市北西部に位置する。集落は蓮華山(576.4m)等の山々に囲まれており、そこでは水稻を中心とした農業生産が行われるとともに、米粉や野菜等を使った農産加工品や総菜等の販売に取り組んでいる。

集落内の基盤整備水田のイノシシ柵とは別に、山中に集落を取り囲むようにイノシシ防護柵を設置したが、住民の高齢化により点検に必要な巡回、補修に必要な資材搬入が困難になってきたことや、山際の荒廃が進んできたことから、イノシシ被害防止対策の進め方を再検討する必要性が生じてきた。

そこで、集落住民の労力低減を伴う、イノシシ侵入防止対策を計画的に進めることとした。

2 地区の概要

地区名	岩国市南河内地区 (大山・伊房集落)
主な作物	水稻、野菜
加害獣種	イノシシ、サル
対策実施年度	令和2、3年度



3 被害の状況と課題

○山中にイノシシ防護柵（平成23、24年度国事業、延べ3,575m）を設置したが、特に大雨後の落石や土壌流出、倒木等による破損があり、そこからの侵入を防ぐための補修維持に労力を要していた。

○防護柵と道路・河川の交差部分は、イノシシの侵入を防ぐことが難しい状況にあった。また山際の荒廃がすすみ、イノシシが集落に侵入しやすい環境となっていた。

4 取組内容

(1) 防護柵の緊急点検活動の実施

○令和2年度に集落住民と関係機関による点検活動を実施し、補修・改良作業箇所を検討した。

(2) 点検活動結果に基づく防護柵の補修・改良

○補助事業を活用し、柵の維持管理が容易となるよう、扉の補修、柵下部の補強、柵の折り返しの延長を実施した。

(3) 緩衝帯整備に向けての山口型放牧の実施

○令和3年度、山口型放牧による緩衝帯整備を集落内で検討し、集落住民と関係機関により、候補地の現地調査を行った。

○令和4年度より、山際の耕作放棄地において山口型放牧を実施し、3年間の取組実績(合計)は、延べ4.3haとなった。



集落での意見交換



柵下部の補強



山口型放牧の様子

5 取組の成果

○集落住民が、関係機関とともに防護柵の緊急点検活動を実施することにより、問題点を再認識するとともに情報を共有できた。

○問題点が明確になることにより、対応策の検討が進み始め①柵の補修・改良、②山口型放牧による緩衝帯の整備に向けての取組が始まった。

【被害額】

(千円)

区分	事業 実施前	令和4年度		令和5年度		令和6年度	
		実績	増減	実績	増減	実績	増減
イノシシ、サル	50	32	▲18	32	▲18	45	▲5

6 地区代表者のコメント

○柵の維持に対して、当たり前と思っていた労力が、県事業の活用により随分楽になった。

○柵の維持管理が楽になった分、緩衝帯整備等の検討が行える余裕が出来た。

○緩衝帯整備を行った箇所では、イノシシ等の姿を見かけなくなった。

7 今後の取組

令和7年度以降も県のレンタカウ制度を活用した山口型放牧による緩衝帯整備を実施する予定。